

日時：令和7年11月14日（金）10:00～12:00

場所：岡山県生涯学習センター講義棟 会議室

1 開会

・所長挨拶

2 議事

（1）生涯学習センター事業の取組状況について

資料1－1 「ココロうごく未来のジブン発見！」について

事務局から説明

委員）参加者が6名ということだが、実際に周知をどのようにしているのか。

事務局）センターのホームページ、Facebook、Instagramで発信している。また、チラシを岡山県内の小学校、図書館、公民館、市町村教育委員会に配付をした。

平林金属編は9月27日実施ということで、配付が7月の後半になった。学校が夏休みに入り、なかなか届きにくかったということもある。また、運動会の日程と重なったこともある。参加者はホームページを見た、公民館でチラシを見た、夏休みを明けて学校に行って学校でチラシを見たという応募があった。なかなか周知をするのが難しかった。

来てくださった方はすごく好印象を持っていたが、交通面、対話ということもあり、ハードルが高くなったかもしれない。

委員）実施する時期とか、配付も全校生徒ではないので、全体に周知したということだと思うが、もう少し工夫も要るのかなと思う。閑谷学校編や地方裁判所編の参加状況を教えてほしい。

事務局）チラシ配付については、当初応募数が伸びなかったため、平林金属編では周辺の小学校に5、6年生全員に配付した。よって、閑谷学校編や地方裁判所編では始めから周辺の学校にも全校配付を行った。現在の参加状況は、地方裁判所編は8名だが、閑谷学校編は0名である。今後は岡山県の公式ホームページ、ラジオでも広報する。

委員）事業のねらいについて、子どもたちに主体性をもってもらいたいとあるが、主体性とは何か、どんな主体性を学んでほしいのか、少し具体的に教えてほしい。

事務局）体験を前半に行い「こういう世界もあるんだ」と感じてもらい、会社が行っていることや会社の考え方などを従業員とコミュニケーションをとることで、まず企業を知ってもらおう。その上で従業員と対話をする。なぜこの企業に入ったかなどの思いや生き方に触れることで、「将来こうなりたい」と改めて思い返すことによって、今後自分の進路を考えるきっかけにもらえるらと考えている。

委員) そういう意味では、これは今後に関がってくる。しかし、特定の事業者で本当に学べるのか。企業といってもいろんな種類・業種がある。なぜ今回、平林金属を選んだのか。企業によっては考え方も違うし、やっていることも違う。地域の中での貢献度も違う。子どもたちにそういったことを、広い視野で、どのように考えてもらいたいのか。

今の子どもたちは自分の力で生きていく必要があり、非認知能力等が強調されている。子どもたちにも選択の自由があるわけで、そもそも基本的なことを伝えるのであれば、やはり働くことの意味がポイントになると思う。そうすると、選ぶ企業って難しいし、働くって企業だけではないと思うが、そのあたりは来期以降に関がっていくのか？

事務局) 今回は平林金属だったが、来年度は同じような業種ではない。例えば畜産研究所であれば、研究者という顔、公務員という顔、家畜飼育者という顔、牧場の館といったいろいろな顔をもっているの、どういったことができるかという話を今後進めていく。

委員) 大企業もあるが中小企業もある。「中小企業にはこんな仕事があるんだ」ということをまず知ってもらってからと思った。そのあたりをどうするのか、また教えていただきたい。

委員) この事業について、ねらいの中心は子どもたちに将来のことを考えてもらいたいことだと思うが、そういう認識でよいのか。

事務局) よい。

委員) 「また～」の部分で、受け手となる施設、企業に子育てをやっていこうという気持ちを持ってもらおうということだと思うが、この事業のねらいを聞いたときに、どういう事業なのか分かりにくかった。成果と課題にも、子どもたちの感想、企業の話、保護者の感想などいろんな話が出てくるので、こういう事業だというのが分からない。ねらいの対象について、子どもを前面に出して、学校に呼びかけるときも、参加したらどういうことを学んで、どういうことができるのか、ということをもう少しわかりやすく書いた方がいいと思う。

行く先の施設で企業の地元の子どもに呼びかけをしていると思うが、例えば学区が違ってても関心があるという子どもや親もいたりするので、申し込みができるのは幅広い方がいいと思う。

例えば来年度も実施すると思うが、シリーズで3回やるなら3回まとめて全小学校に周知したりして、関心ある人がいればどうぞという方が参加する人の裾野広がるのかなと思う。

資料1-2 「調査研究」について

事務局から説明

委員) 回答率が35.1%は半分より低い。どういう方に配付したのか教えてほしい。

事務局) 県内2,000人を対象にし、市町村の人口比率によってその2,000人を分けた。その中で各市町村が無作為抽出により選んでいる。回答はインターネットでもよいし、郵送でもよい。

35.1%についてだが、一般的には約4割ぐらい回答があればよいとされている。よく返ってきた方だなと感じている。

委員) インターネットの回答方法は Google フォームか？

事務局) Google フォームである。QRコードを読み取り質問に答える形である。

資料1-2の下側の属性を見ると、回答した年齢の半数以上が60代以上から80代以上で、インターネットより郵送の方が多かったと見ることができる。

委員) この調査は単年度での研究という認識でよいか。

事務局) よい。従来5年に一度意識調査を行っていたが、コロナ禍等があり本来であれば令和5年度にやっておきたかった。令和6年度着手、令和7年度完結となっている。定期的に5年おきぐらいにやっていきたいと考えている。

委員) 2月下旬に結果が出るというが、この結果を受けて、また新しくいろんなことがわかってきたことに対して、次の事業を進めていくようにならないといけないと思う。どんなスケジュールになっているのか。

事務局) この結果をもとに来年の新規事業を立ち上げることは予算の関係上できない。新しい事業展開となると再来年以降になる。しかし、情報の入手方法や、何を求めて学習をしているのかという結果はすぐに研修の内容に加えることができる。例えば「仲間を得ることができる」という理由で学習を行っている人が多いことからグループワークを増やす、他者の意見を聞くという時間を多くするという内容面の工夫はすぐ来年度からできる。

自主的な学習(3ページ下側)について、我々が社会教育の分野として力を注いでいる家庭教育支援や地域と学校の連携協働、地域課題をどう解決していくかという部分についても、ある一定の学習をしたいと思っている人がいるため、この一定数を対象にした事業展開は今後も続けていくべきと考えており、新しいことや現在あるものを続けていくことも必要だという裏付けにもなったと思う。

委員) 6ページを見ると生涯学習センターを知らない人がたくさんいる。60代70代よりも20代~50代の人知らないのではないかな。そういう知らない人たちが何を求めている、県がやるべきことはどんなことが、そのあたりを専門家の方と一緒に生かしていただけたらいい。

事務局) 調査研究は生涯学習センターの事業に生かすだけではなく、県の調査研究機関としての役割が生涯学習センターにあるため、この結果を本庁や市町村教育委員会にフィードバックし、それぞれの自治体でこの内容に基づいて研究し、事業に生かしてもらうということを想定している。

委員) 関係機関はもちろんのこと NPO 団体でも生かされるよう情報を提供していただくと、より根拠がある事業になる。

事務局) 内容は全てインターネットで公表するので、利用していただきたい。

委員) 5年ごとに同じ項目で調査しているのか。

事務局) ほぼ同じ項目である。しかしコロナがあったので、前回の5年前ができていない。本来なら5年ごとにやって経過をみていくのがよい。コロナ禍を迎えるまではそういう分析の仕方もしていたが、今回10年あいてしまった。

統計分析課によると、10年前と比べてもあまり比較にはならないと言われてたため、今回は過去との比較はしていない。しかし、定期的にやることによって比較もできたらと思っている。

今回はクロス集計を行い、分析の仕方を見直した。今後これをベースに5年後も行うというのが一つのやり方だと思う。

委員) 先ほど回答が結構返ってきたという評価をされたが、有効回答数、回答率はどこに基準を置いているのか。700人という数字が今後何かを考えていく上での評価に値するデータになるのか。統計分析でいうと有効な回答率はどれぐらい必要なのか。2,000人という決め方もよく分からない。ましてや、過去と比べても、この数字が分母になってしまうと今後の比較はどうなのか。また5年後にやると回答した人が全く違う人が該当するかもしれない。

事務局) 統計分析課と協議をしてきたが、2,000人の規模で調査するというのはい一つの調査の単位としては有効である。そして住民の方の好意だけで回答してもらっているので、4割回答があれば一般的には返ってきているというのが県の考え方である。

700人が県全体の180万人の県民の意向をどこまで反映しているのかと思われるが、全体の意識の方向性がある程度は見えてくるのではないかとっている。

市町村ごとに細かく分析したかったが、回答数が非常に少ない市町村もあり、偏りが出してしまうので、今回は大きく3つの地域(備中・備前・美作)に分けて、結果を出している。

委員) 今後いろんなことで検討していく材料データとして利用するときに、利用可能なものなのかというところが気になった。本当にこれを鵜呑みにして、今後の事を考えていいのかと思った。統計の分類というのは、地区別、年齢別、年代層も限定して幅広く見ようというのものもある。結局ある程度テーマが必要なのかなと思う。この調査を研究とか、漠然と調査しましたとなると本当にそれでいいのかなと疑問に思った。

資料1-3 「交流棟利用者アンケート」について

事務局から説明

委員) 利用している方にとっては、すごくよいと結果が出ているのは分かるが、難しいのが利用者が増えると席がいっぱいになってしまうことである。ほど良い使われ方があると思うが、全体からすると利用割合は席数とかに比べてちょうどよいのか。

事務局) 学習席は土日祝日、また近隣の中高生が考査期間中の際には非常に混雑をしている。来館したけど勉強できなくて帰る方ももちろんいる。席を増やして欲しいとの声もいただくが、これ以上席は増やせない。

交流ゾーンについては、人が溢れて仕方が無いということはない。親子連れで公園に遊びに来たついでにふらっと寄り、親子で絵本を広げて、一緒に読んで帰っていく方や、丸テーブルでは、夏休みの宿題とか通常の毎日の宿

題とか親子でやりに来るという方もいる。交流ゾーンは比較的混み合っていない。

閑古鳥が鳴くという状況もない。学習ゾーンはある一定の期間になると、席を使えず帰る方もいる。

会 長) かつて県立図書館でも席を長時間使用しないためにいろんな工夫をしていた。そういった工夫はあるのか。

事 務 局) その工夫の件は知っている。いろんな学習施設を学習相談員4人がリサーチに行き、学習席を使いたい人は学習カードを取るようにしている。長時間席取りをして他所に行くという状況もあったため、席を離れるのは30分間だけという約束を作った。席を離れるときは学習カードを裏返し休憩中となるように変えた。使う意識の問題で30分以上席を空ける人がもうほぼいなくなった。長時間利用を制限することはまだ行っていないが、長机を使う際に、隣の席まで荷物を置いて隣の席を使わせないようにするという状況もあったため、青い線を引いて区切り、長机を独占できないようにした。

委 員) 考查期間中は人が多いことについて、席はもちろん場所も限られているし、それは仕方ないことだと思うが、例えば考查期間中だけでも空いてる部屋を解放することは考えているか？

事 務 局) お金を取って貸している部屋になる。指定管理業者に運用を任せている関係で難しい。利用者によっては「今日はここは使えたけど今日は使えない」「使えんと思って来たのに」という意見の対応も考えると難しい。交流棟だけにさせていただきたい。

委 員) どうしても取りこぼしがあるのは仕方ないが、少しでもみんなが勉強できる環境にしてもらいたい。例えば仕切りで区切るとかできればいい。

事 務 局) きらめきプラザにも学習スペースがあるので、満員だったらそちらを紹介するよう学習相談員に指示している。

(2) 人と科学の未来館サイピア事業について

ア 令和7年度事業の取組状況について

事務局から説明

質疑なし

イ 令和8年度事業計画(案)について

事務局から説明

委 員) 友の会の一般会員が3,300円から4,400円に値上がりした理由を教えてください。

事 務 局) 友の会は年度ごとの会員となっており、12ヵ月間の会員だが、今年度はプラネタリウムの中止の関係もあり9ヵ月間であり、3ヵ月はなしとなっているため、令和7年度から実質値上げの状態となっている。小中高校生、賛助会員も9ヵ月で表内にある金額となっている状況である。

実質値上げをしている状況で令和7年度を開始しているが、令和6年度と

比べて令和7年度の会員数は現時点で3割ほど減少しており、期間が短いこと、金額が上がったことが原因だと考えられるため、小中高校生、賛助会員については金額を据え置き、一般会員のみ1,100円値上げする。この金額については、3,300円を12ヵ月で割ったところ、3ヵ月分だと、およそ740円になる。令和2年度から値上げをしていない状況なので、今の社会情勢もあるので、1,100円が妥当と考えた。

委員) 小中高校生、賛助会員は据え置けることは利用状況がよくないからか。

事務局) そうである。

委員) 会員のメリットはプラネタリウムを無料で年間利用できるということか。

事務局) そうである。イベントにおいても友の会の方は無料となる。

委員) 一般会員は何名いるのか。

事務局) 一般会員は令和6年度は88名、令和7年度は現在66名である。学生会員が令和6年度は35名で、令和7年度は23名である。

会長) プラネタリウムの料金はいくらか。

事務局) 一般の方530円、65歳以上の方320円、高校生310円、小中学生110円、未就学児は無料である。

委員) 施設内で行うものと施設外で行うものを教えていただきたい。

事務局) ほとんどが施設内で行うものだが、6ページの12番の誘致活動業務が施設外で行うものである。サイエンスインストラクターやサイピアの職員が学校や公民館等で科学実験の講師として訪問している。令和7年度は、イオンオール岡山に出向いたり、赤磐市の小学校で移動式プラネタリウムを開催している。

委員) 職員自身が動くものと協力を得て動くものの協力体制が見えない。予算をどこまでつけているのか。場合によっては、関わる人が自費でやらないといけないこともあるのではないか。サイピアとしてどう考えているのか。

事務局) サイエンスインストラクター養成講座を受けたインストラクターについては、サイピアを窓口として外部から要請があった際に、メーリングリストで送り、インストラクターと外部が直接連絡をとるようお願いをしているので、関与していないが、交通費は必ずいただくようにしている。しかし、外部の小学校や公民館などはあまりお金が出せない状況である。交通費と実験で使う材料費はいただいている。

委員) 費用面で厳しい方はたくさんいると思うが、協力した方がもっと世間に公開できるような、広報的なものが見えないので、組み込んでいただけたらと思う。

委員) 友の会の特典について、ニーズに合っているのかと思う。調査していく必要があると思う。

委員) 企画展示室の運営で初開催するものは聞いたが、企画展示室以外で新規の事業があれば教えていただきたい。

事務局) 新たな事業は、今のところ予定していない。例年通りである。しかし、工作や科学実験教室については、場所が空いているところを使って行っている。10

月頃から募集をしているが、連携先と日程を決めて、科学実験教室を行っている。

工作については、科学実験教室が決まった後、場所が空いているときに、広く一般の方にも募集している。工作についてはこれから増えると思う。令和7年度も同様である。

会 長）広報について、SNS や YouTube も計画されているということなので充実させていただきたい。

3 その他

- （１）全天周デジタル投影システム交換工事について
事務局から説明
質疑なし

4 閉会